

## 令和5年度 全国体力・運動能力、運動習慣等調査について

調査対象：5年生

調査事項

ア 実技に関する調査

握力、上体起こし、長座体前屈、反復横とび、20mシャトルラン、50m走、立ち幅とび、ソフトボール投げ

イ 質問紙調査（運動習慣、生活習慣等に関する質問紙調査）

### 1 結果と分析

- 全学年において、握力の結果が全国平均よりも高く、大きな力を出す能力である筋力が優れている。
- 高学年男子は、立ち幅跳びのすばやく動き出す能力である瞬発力が優れている。
- 中・高学年女子は、20mシャトルランの運動を持続する能力である全身持久力に課題がある。

### 2 取組についての評価

#### (1) 体育科の学習指導

##### ①効果があった取組

- ・児童の課題に応じた場づくりを行い、児童が場を選択して運動に取り組むことができるようにして、主体性を大切にした学習指導を図ったこと。
- ・学習のねらいに応じて学年体育を取り入れることで、児童の実態や課題を踏まえて、個に応じた指導を行う体制を整えたこと。
- ・体育の学習の中で、タブレットを活用して自分の動きを評価する機会を設定したこと。
- ・体育の学習では、児童の運動時間を30分確保することを目標として、全学級で取り組んだこと。

##### ②改善を図る点

- ・持久力を高めるために、今後も体育の時間に3分間走や縄跳びをする取組を継続すること。
- ・敏捷性を高めるために、合図にすばやく反応してダッシュや方向転換をしたり、低いハードルをすばやく跳び越したりする運動を取り入れること。

#### (2) 今後の体力向上に対する取組

- ・体力向上研修会で作成した「体力向上シート」をもとに、各学年の課題に応じた運動の取組を実施・評価・改善し、次年度の体力テストまで取組を継続する。
- ・運動する楽しさを実感させるために取り組んでいるハルレク（クラスマッチ）を開催する。